平成二十七年（二〇一五）

# 塩尻 今年の 5大ニュース

## 新市立体育館 建設へ

塩尻市政で10数年来の課題となっていた新市立体育館の建設問題が9月に決着した。建設場所は松本歯科大学南東側の民有地（広丘郷原）、総事業費28億2200万円、延べ床面積6300平方㍍とし、平成32年度の完成に向けて基本計画の策定作業が進んでいる。市が7～8月に行った全世帯アンケートで、建設賛成が47・7％と反対の44・8％を2・9㌽上回り、市議会が建設に賛成したことを受け、小口利幸市長が建設を最終決断した。

新体育館の建設を表明する小口市長（9月）

## 5、6月に熊の出没相次ぐ

塩尻市内では5月から7月にかけて熊の出没が相次いだ。人的被害も2件発生し、宗賀地区で5月と6月に立て続けに男性2人が襲われた。松本地域の中でも特に塩尻に発生が集中し、7月末まで市に寄せられた熊の目撃情報は、前年の約5倍に上った。市や市猟友会などは、出没場所近くに捕獲おりを設置したりパトロールを強化したりして、連日対策に追われた。一方、例年熊の目撃が増える傾向にある秋は出没が少なかった。

洗馬の沓沢湖近くで捕獲おりにかかった熊（6月9日）

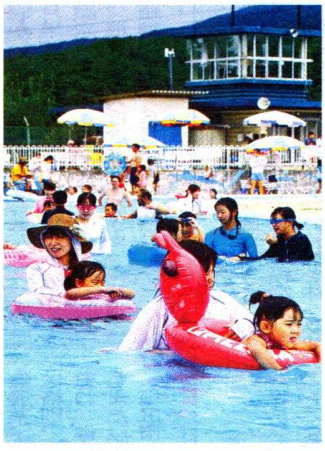
## 統一地方選で新人躍進

4月の統一地方選挙の前半戦となる県議選塩尻市区（定数2）には、光正氏＝宗賀＝が返り咲いた。続く市議選は定数4減の下で初めて行われ、18議席をめぐって現職15人と新人5人の計20人が立候補した。19人が1000票以上を獲得する混戦模様となり、現職1人、元職1人、新人2人の計4人が立候補し、40歳の無所属新人・丸山大輔氏＝塩尻町＝が若さへの期待も集めてトップ当選し、共産党元職の備前新人全員が当選を果たした。

県議選で初当選し祝賀会場入りする丸山氏（4月12日）

## 小坂田プール 歴史に幕

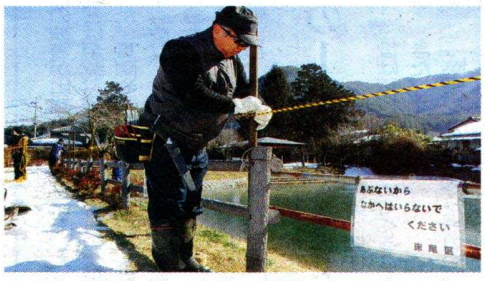
塩尻市の小坂田公園市民プールが、8月に今季営業を最後に閉園し、昭和53年の開園から重ねた37年間の歴史に幕を閉じた。記録が残る中では、平成6年の約6万人をピークに利用者数が減少傾向にあり、老朽化が進む施設の改修に数億円規模の費用がかかることなどから、市が今季限りでの廃止を決めた。営業32日間で昨季の1・9倍に当たる2万1708人が訪れ、廃止を惜しむ家族連れなどでにぎわった。跡地利用が今後の課題になる。



最後の営業を楽しむ来場者（8月23日）

## 宗賀のため池で園児死亡

塩尻市宗賀床尾の大堤公園ため池で2月、遊んでいた近くの保育園児＝当時（6）＝が溺れ、死亡する事故が発生した。池の水深は約1・5㍍、周辺には高さ1㍍弱の柵があったが、柵の隙間から水辺に近づける状態だった。事故を受け、公園を管理する床尾区は池を囲うフェンスを設置した。市も、直後に市内全域のため池で緊急安全点検を実施、柵や注意看板の整備を進め再発防止策を講じた。市と区は、遺族に連帯して損害賠償を行った。




事故発生後、地元床尾区が池にロープや注意看板を増設し緊急対策を施した（2月14日）